

ている。本症例では、尖頭を中心に広範な歯質の吸収がみられたが、象牙質の窩状吸収部やエナメル小皮に接して異物巨細胞が観察されたことから、象牙質だけでなくエナメル質の吸収も破歯細胞（異物巨細胞）によってなされるのではないかと推察された。また吸収を受けた歯質には骨組織が増殖添加して歯槽骨との骨性癒着を起こしていたことは注目された。

結 語

47歳女性にみられた、エナメル質、象牙質の吸収および骨性癒着を伴った下顎左側埋伏犬歯の1症例を経験した。病理組織学的に、尖頭を中心に広範な歯質の吸収があり、エナメル小皮の辺縁と象牙質の窩状吸収部に多核の巨細胞が観察されたことから、象牙質だけでなくエナメル質の吸収も異物巨細胞によると推察された。

なお文献についてご教示を得た森崎益夫氏に感謝の意を表する。

文 献

- 1) 粟沢靖之編(1977)新編口腔病理学下巻. 415—426. 金原出版, 東京.
- 2) Azaz, A. and Shteyer, A. (1978) Resorption of the crown in impacted maxillary canine. *Int. J. Oral Surg.* 7: 167—171.
- 3) Bauer, W. (1914) Histologie retinierter Zähne mit besonderer Berücksichtigung der Frage nach der Genese der Osteoklasten. *Ergebn. d. ges. Zahnheilk.* 4: 10—26.
- 4) 石川梧朗, 秋吉正豊 (1978) 口腔病理学 I. 360—361. 永末書店, 東京.
- 5) Stafne, E. C. and Austin, L. T. (1945) Resorption of embedded teeth. *J. Amer. dent. Ass.* 32: 1003—1009.
- 6) 富取卯太治 (1931) 稀有なる癒合歯竝に其根端部に於て歯牙の埋伏を伴へる臨床例に就て. *歯科学報*, 36: 165—174.
- 7) Weinmann, J. P., Svobode, J. F. and Woods, R. W. (1945) Hereditary disturbances of enamel formation and calcification. *J. Amer. dent. Ass.* 32: 397—418.

第11回 松本歯科大学学会(総会)開催の案内

◎第11回松本歯科大学学会(総会)は、11月29日(土)午後1時より本学7階講堂に於て開催致しますので、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。

松本歯科大学学会 会長 加藤 倉三

◎演題募集

講演に出題希望の方は、400字以内（B5原稿用紙使用）の要旨をつけ、11月15日（土）正午までに集会幹事までお届け下さい。（講演時間は1題8分の予定）。なお講演終了後、目的・方法・成績・考察の順に書かれた1,200字以内（B5原稿用紙）の抄録を提出していただきます。

松本歯科大学学会 集会幹事